

◆歯科に関する生涯教育研修会を開催しました

平成29年2月2日(木)に当院講堂に於いて第285回開放型病床生涯教育研修会を開催しました。講師に東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科助教 中久木 康一 先生をお迎えして、「災害時歯科保健医療支援と受援」～自治体、歯科医師会そして地域がん診療連携拠点病院の役割を考える～と題しご講演いただきました。

災害時の口腔ケアの大切さや行政を含めた地域連携の重要性を強調され、実際の事例を紹介しながらその現場に携わってきた経験をわかりやすく話されました。テンポの良い語り口調で楽しい講義となり、参加者も興味深い時間になったのではないのでしょうか。

講演後のアンケートには、「災害時に対応できるよう事前の連携構築が重要であると感じた」・「災害時の写真を織り交ぜながら、多角的に講演いただきとてもわかりやすかった」・「やはり災害時に一番大切なことはつながりだと再認識しました」等の意見がありました。2市の防災・健康関係職員の参加もあり、参加者の意識が変化した、とても有意義な研修会となりました。



◆世界腎臓デー市民公開講座の開催

日時：平成29年3月5日(日) 10:00～11:30 (9:30から受付)
会場：北ビワコホテル グラツィエ 2階 長浜市港町4-17
テーマ：慢性腎臓病あなたは大丈夫? ～高血圧・糖尿病・血尿・たんぱく尿は透析の危険があります～
定員：100名(定員になり次第締め切ります) 参加費：無料
申込先：市立長浜病院地域医療連携室 電話0749-68-2300(代)

◆地域医療連携室からのお知らせ

平成29年4月より歯科・歯科口腔外科の病診予約枠の拡大を予定しております。そのため電話予約を中止させていただきます。当日診察受付についても、制限がありますのでご了承くださいませ。病診連携での診察予約にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

◆診療情報支援室からのお知らせ

この度、当院図書室所蔵書籍を一部廃棄いたします。譲渡を希望される場合は、次のとおり受け付けいたしますので、図書室まで連絡していただきますようお願いいたします。廃棄タイトル等につきましても、図書室へお問い合わせください。

譲渡受付期間：平成29年3月1日(水)～3月15日(水)

お問い合わせ先 診療情報支援室 図書担当 岸田・安藤
Tel0749-68-2300 内線2259

◆編集後記

3月は私にとってアニバーサリーなことが多く、毎年楽しみにしていたのですが、今年は少し複雑な気持ちになりそうです。年度の締めをきっちり行い、次のステップに進むため準備をしっかり進めたいと思っています。

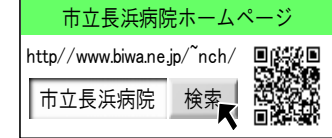


救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
厚生労働省指定地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院 周産期協力病院

地域医療連携だより

平成29年3月1日号 No.147

市立長浜病院



市立長浜病院地域医療事業部 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大茂町313番地
TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 早春の候、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診察担当医師表をお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

◆湖北地域の呼吸器内科の現状

呼吸器内科責任部長 野口 哲男



現在、湖北地域で呼吸器専門医がいる病院は当院のみです。当院は湖北地域唯一の呼吸器内科、呼吸器外科のある地域基幹病院/呼吸器センターとして、地域完結型の医療が継続できるようにスタッフ一同努力しているところです。呼吸器疾患は多岐にわたりますが、肺がん、喘息/COPD、間質性肺炎、肺炎について、連携の観点から書きます。

- ① 肺がん：肺がんは早期診断、早期治療が原則です。タバコを吸っている人にはぜひ禁煙を勧めてください。当院では、手術(呼吸器外科)、放射線治療(放射線治療科)、抗がん剤(呼吸器内科/外科)と、標準的な治療にすべて対応可能です。最近では、免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬)も導入し、最先端の治療をできる限り安全に提供するように連携しながら診療しています。また、緩和ケアにも力を入れています。
- ② 喘息/COPD：タバコを吸っている人にはぜひ禁煙を勧めてください。治療の原則は吸入薬です。吸入薬は内服薬と違い、きちんと吸入しないと効果が発揮されません。当院では、湖北薬剤師会と連携して薬剤師の吸入指導レベルを上げる研究会を開催しています。かかりつけ薬剤師による正しい吸入指導の普及に努力しています。
- ③ 間質性肺炎：近年増加している病気です。肺胞の隔壁が固くなり、肺活量が落ちて息切れをきたす難病です。原因がある場合(薬剤、放射線、膠原病、アレルギーなど)と原因不明の場合(特発性間質性肺炎)があります。治癒することは困難ですが、抗線維化薬を使用すると進行を緩やかにすることができます。間質性肺炎疑いのX線が見られたら、早めに呼吸器内科に紹介してください。
- ④ 肺炎：65歳以上の高齢者の死因の上位に肺炎が挙げられます。肺炎を繰り返すうちに薬剤が効きにくくなる耐性化が起こる恐れがあります。まずは、ワクチン(インフルエンザウイルス、肺炎球菌ワクチン)を打って肺炎になるリスクを減らしましょう。肺炎球菌ワクチンは2種類あり、両方とも打っておくことが望まれます。誤嚥のリスク(脳梗塞後遺症など)がある場合、特に口腔ケア(虫歯の治療、歯磨きの徹底)を継続することも肺炎の予防に重要です。いったん肺炎で入院すると、入院前の生活に戻るのが難しくなります。当院では肺炎で入院した当初から、リハビリ科と連携して早期の離床、早期の軽快退院を心がけています。

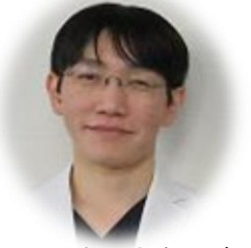
◆医師のご紹介

リウマチ・膠原病内科 中村 拓路

はじめまして、中村拓路と申します。前号の梅原久範先生の文章でも紹介がありましたとおり、私は梅原先生が主宰されていた金沢医科大学血液免疫内科に入局して以来、一緒に仕事をしてきました。

私どもは2017年1月から市立長浜病院での勤務を始めました。今までは非常勤の先生方がリウマチ膠原病内科の外来を支えてこられました。私たちがリウマチ膠原病内科およびリウマチセンターの常勤医として着任し、当科は常勤医3名+非常勤5名+秘書1名となりますので、外来だけでなく入院適応のあるリウマチ膠原病患者さんまで広く診ていけるようになりました。また、長浜市では以前から京都大学医学研究科と連携し、ながはま0次予防コホート事業が実施されており、京都大学と深い関わりがありますが、今年の4月からは京都大学医学部附属病院リウマチセンターで行われているリウマチコホート調査が当院リウマチセンターでも実施されることになりました。

以上のように、今年から市立長浜病院のリウマチ膠原病診療体制は大きく変わります。湖北地域のみならず、滋賀県のリウマチ膠原病診療が発展できるよう微力ながら頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。



◆医師のご紹介

リウマチ・膠原病内科 佐藤 智美

～すべてのリウマチ患者さんの笑顔を目指し～

皆様はじめまして、佐藤智美と申します。市立長浜病院リウマチ膠原病内科責任部長兼リウマチセンター長の梅原久範、および副センター長の中村拓路とは金沢医科大学で共に仕事をしており、その縁で当センターの一員として加えてもらえることになりました。今回の赴任については、リウマチ膠原病内科として長浜および滋賀県のリウマチ膠原病診療を支えるだけでなく、京都大学で既に実施されているリウマチコホート調査を市立長浜病院リウマチセンターで開始するといった目的もあります。具体的には、当院に通院する全ての関節リウマチ患者さんの自覚症状をはじめとする詳細なデータを未来に渡って追跡する大規模な調査になります。将来的には長浜におけるリウマチ疾患の傾向や寛解率など様々な有益なデータとなり、患者さんに還元できると確信しています。

本年1月より勤務を開始していますが、大変多くの外来患者を非常勤の先生方が支えてこられたことに驚いております。これらの先生方には及びませんが、最大限の努力を続けていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



◆医師のご紹介

リウマチ・膠原病内科 川中 紀邦

2017年2月より市立長浜病院リウマチ・膠原病内科に赴任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。わたしは内科疾患の中でも、特に関節リウマチ・膠原病を専門にしております。総合内科的立場より、患者様お一人おひとりに最適な医療を提供し、先生方の御要望に応えられるような診療をつとめさせていただきます。

当分野の専門医が少ないこともあり、これまでの勤務先では膠原病医療を一人で任されることが多く苦悩もありました。しかし、難症例を乗り越えながら、なんとかこれまで専門医療を続けることができたのも、諸先輩方のお力添えの賜物と感謝しております。市立長浜病院では梅原久範先生を中心とした数多くの専門医でチーム医療を行います。私にはチーム医療の一員になれたことが何よりの喜びであります。あらゆる疾患と向き合い、積極的な医療を目指し、専門分野にさらなる磨きをかけたいと思っております。月～水・金は市立長浜病院に常在しておりますので、御気軽に相談頂ければ幸いです。地域の方々に愛され、期待されるように一層努力いたします。どうか御指導の程よろしくお願いいたします。



◆地域医療事業部・がん対策推進事業部 H28年度活動報告

地域医療連携室 前方連携グループ

平成28年度の紹介患者数は、12月末現在9,183件、検査予約は1,969件でした。多くのご紹介ありがとうございました。

現在、病診の受け入れで規制が多く、大変ご迷惑をお掛けしております。当院でしか受け入れできない診療科の受け入れや加療が、よりスムーズに進むようにより良い調整と連携を図っていきたく考えています。

今年度から新しくDEXAの病診検査予約を取り入れ、骨粗鬆症の治療継続や健康意識の向上につながるよう努めてきました。

まだ、予約件数は少なく活動も不十分なままであり、来年度に持ち越したい課題です。

地域医療連携室 後方連携グループ

入院患者さんの退院支援が主な業務です。

今年度は1月末まで657人の患者さんに介入了しました。介護サービスを利用して在宅へ退院される方もおられますが、身体状況や家族の事情などが理由で転院や施設入所を希望される方も多いためです。

また、外来患者さんへの在宅療養支援にも力を入れています。院内の患者相談窓口やがん相談支援センター、訪問看護ステーションなどと連携しながら、患者さんやケアマネージャーさんからの相談に対応しています。

がん対策推進室

今年度のがん啓発・研修事業では、第9回がんフォーラムに就労支援のパイオニアとして活躍されている桜井なおみ先生を招聘し、「医療・行政・市民がともにある暮らし」について地域の方と一緒に学ぶ機会を得ました。

『基本的緩和ケアの普及』としては、医師対象の緩和研修会を開催し、『多職種連携緩和ケアカンファレンス』では地域の方々と有意義な意見交換ができました。さらに市民対象の世界ホスピス緩和ケア週間展示も開催できました。

次年度も、地域がん診療連携拠点病院として、地域住民の方や医療機関の皆様と共同でできるような事業を検討しております。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

地域医療がん対策推進事務局

地域医療支援病院の承認を目指し、院内調整を図り、かかりつけ医の普及啓発を強化しました。また、開放型病床生涯教育研修会においては、病理や地域連携並びに妊孕性温存等、多岐に渡る研修を実施いたしました。

今後も、地域の先生方と連携を深めていきたく考えております。ご指導、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

がん相談支援センター

がんに関する様々なご相談に専門の相談員が無料で対応しています。平成28年度の相談件数は1月末で1625件となり、年々増加傾向にあります。社会保険労務士による就労に関する個人相談会や、脱毛ケアなどの公開教室も開催しています。

地域でお困りの患者さん、ご家族がいらっしゃるなら、当センターをご案内いただきますようよろしくお願いいたします。



訪問看護ステーション

訪問看護ステーションでは、住み慣れた場所でその人らしく療養生活を送れるように看護師が生活の場に訪問し、療養者・家族一人一人に寄り添った看護を目指しています。

地域のリハビリニーズは高く、在宅移行後も継続したリハビリが理学療法士に求められており、今年から医療保険対象に訪問リハビリを開始しました。

また、終末期の療養者が住み慣れた場所で最期まで過ごせるように、療養者・家族の思いを尊重し、その人らしく最期を迎えることができるよう専門の看護師を配置し、意思決定を支えています。今後も在宅看取り等多様なニーズに対応し、専門性の高いケアが提供できるよう日々取り組んでいきます。